

報道関係各位

2026 年 10 月 5 日

Hmcomm株式会社
(東証グロース 265A)

Hmcomm、QNAP と Enterprise AI 領域で協業
－VAAP をオンプレミス・閉域・エッジ環境へ本格展開－

Hmcomm株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO：三本 幸司、以下「当社」）は、QNAP 株式会社（本社：東京都荒川区、カントリーマネージャー：楊正安、以下「QNAP 社」）との間で、当社のオンプレミス AI 実行基盤「VAAP ZBOX」の Pro 及び Enterprise 領域での技術検証に向けた取り組みを開始することとなりましたので、下記のとおりお知らせいたします。

本協業を通じて、QNAP 社のデータ管理・ストレージ・コンピューティング基盤と当社の音声 AI・AI Agent 技術を組み合わせ、企業内のデータを活用する AI 導入を推進し、VAAP 関連事業の拡大を目指します。

1. 協業の背景及び目的

当社は、音声 AI Agent プラットフォーム「VAAP」を通じて、顧客業務に合わせた AI Agent の構築・導入・運用を進めています。「VAAP ZBOX」は、これらの AI Agent を企業内や現場の環境で実行するための基盤です。

機密文書、顧客情報、会議音声、技術資料などを取り扱う業務では、データ管理方針や既存システムの制約から、外部クラウドへのデータ送信を前提としない AI 利用環境が求められます。当社は、このような企業・組織を対象に、Pro 及び Enterprise の展開を推進します。

QNAP 社は、NAS を中心としたデータ管理基盤に加え、GPU 搭載可能なシステムやコンテナ環境など、オンプレミスで AI 処理を行うための製品・技術を展開しています。当社は、同社製品を活用した技術検証により、企業向け AI の実行・データ管理基盤の強化を検討し、オンプレミス領域における VAAP の導入機会を広げてまいります。

2. 協業の内容

・対象機器との技術検証及び導入構成の整備

QNAP 社の対象製品を VAAP ZBOX の実行基盤として活用し、AI の実行性能、データ連携、安定稼働などの技術検証を進めます。顧客の業務規模や処理内容に応じた構成を整備し、Pro 及び Enterprise の導入を支援します。

・企業内データを活用する AI Agent の展開

音声認識・要約、生成した議事録の保存・検索・活用など、当社の AI 技術を企業内で利用する環境の構築を進めます。顧客の要件に応じたアクセス権限、データの保存先、外部通信の制御などを設計し、導入先の情報管理方針に沿った運用を目指します。

・導入後の運用及び利用拡大の支援

当社は、導入時の業務設計、AI Agent の設定、既存システムとの連携から、導入後の保守・運用支援までを提供する方針です。利用部門や対象業務の拡大に応じて AI Agent の追加導入を提案し、顧客ごとの継続的な利用拡大につなげます。

3. 想定する製品展開

対象製品	想定する用途及び展開
VAAP ZBOX Pro	部門・拠点単位での AI 利用。音声認識・要約、議事録の検索・活用など、業務に応じた AI 処理の導入を想定。
VAAP ZBOX Enterprise	複数部門での AI 利用や既存システムとの連携。企業ごとの情報管理・運用要件に対応する構成を想定。

対象機種、提供機能、価格及び提供開始時期は、技術検証及び双方の協議を踏まえて確定する予定です。

4. 当社の収益モデル及び成長戦略

当社は、本協業を通じて導入先を拡大し、VAAP ZBOX 及び AI Agent のライセンス利用料、保守・運用支援料などの継続収益の積み上げを目指します。あわせて、導入時の環境構築、業務別 AI Agent の開発、既存システムとの連携に伴う収益機会を創出する方針です。

導入後は、対象業務の追加や他部門・他拠点への展開を進め、顧客当たりの継続利用額の拡大を図ります。企業内で AI Agent が継続稼働する基盤として VAAP ZBOX を展開することで、VAAP の顧客基盤とライセンス収益の拡大につなげてまいります。

5. 今後の見通し

本件による 2026 年 12 月期の当社連結業績に与える影響につきましては軽微であります。当社は、本取り組みを VAAP のオンプレミス領域への展開可能性を検証するものと位置づけ、今後の技術検証及び双方の協議を踏まえて製品展開を検討してまいります。今後、開示の必要性が生じた場合には、速やかに公表いたします。

■本協業の VAAP*1 における位置付け

【VAAP 通信 Vol.4】

本リリースは、当社が掲げる「Voice AI Agent Platform (VAAP)」戦略における社会実装・事業化の進捗をステークホルダーの皆様へ定期的にお伝えする「VAAP 通信」の第 4 弾です。

当社は VAAP（Voice AI Agent Platform）を共通基盤とし、その上に部品（Agent・Workflow・Knowledge）、用途別の型である AI Agent Suite、業界別・顧客別の業務ソリューションを積み上げる 4 層構造を採用しています。これまでの各号では、主に上位層にあたる AI Agent Suite の提供や顧客企業への導入をご報告してまいりました。本協業は、それらを支える最下層、すなわち共通基盤層に関する取り組みです。

層	本件での該当
業界別、顧客別の業務ソリューション	外部クラウドへのデータ送信を前提としない企業・組織における業務
AI Agent Suite	ZBOX
部品（Agent・Workflow・Knowledge）	音声認識 Agent、要約 Agent、議事録の保存・検索 Workflow 等
共通基盤	VAAP（音声認識・音声合成・Voice LLM・RAG・Security）

本協業で拡張するのは、AI Agent を動かす実行環境です。部品、AI Agent Suite、業務ソリューションの上位 3 層は変更せず、VAAP 上に蓄積してきた資産をそのままオンプレミス・閉域環境でも稼働させることを狙いとしています。

これにより、「1. 協業の背景及び目的」に記載した、外部クラウドへのデータ送信を前提にできない企業・組織にも、同じ AI Agent を届けられるようになります。「4. 当社の収益モデル及び成長戦略」に記載のとおり、実行環境が広がるほど既存の部品を再利用できる対象企業が増え、ライセンス利用料や保守・運用支援料といった継続収益の積み上げにつながります。

* 1 本リリースにおける VAAP および AI Agent Suite の位置付けは、2026 年 8 月 14 日付「AI プラットフォーム企業への事業転換に向けた「Voice AI Agent Platform」戦略の策定について」に基づきます。

■QNAP 株式会社について

カンントリーマネージャー 楊 正安

URL <https://www.qnap.com/ja-jp>

所在地 東京都荒川区西日暮里 2-20-1 ステーションポートタワー6F

事業内容 NAS、ネットワーク関連製品、ソフトウェア等の販売、ならびにソリューション開発

■ H m c o m m株式会社について

代表取締役社長 CEO 三本 幸司

URL <https://hmcom.co.jp>

設立日 2012 年 7 月

所在地 東京都港区浜松町 2-10-6 PMO 浜松町III 4 階

事業内容 人工知能（AI）音声処理技術を基盤とした要素技術の研究/開発およびソリューション/サービスの提供

<本リリースに関するお問合せ>

報道関係者様：H m c o m m株式会社 IR 担当 hm_ir@hmcom.co.jp

企業様：H m c o m m株式会社 営業統括部 sales_team@hmcom.co.jp

TEL：03-6550-9830 FAX：03-6550-9831

